

2025年度 第1回 町田・安心して暮らせるまちづくりプロジェクト推進協議会  
議 事 録

1. 開催日時 : 2025年 5月22日(木) 19:00~20:48
2. 開催場所 : 町田市医師会館
3. 出席委員 : 川村益彦、五十子桂祐、土屋孝治、井上俊、岡元信太郎、  
佐藤真吾、齋藤秀和、長谷川昌之、藤原幸雄、柴和夫、松岡亮二、  
罇隼人、岡本直樹、長村将宗、永見直明、戎めぐみ、神田裕幸、田川尚寛、  
高橋愛、佐川幸子、齋藤美和子、早出満明、江藤利克  
計 23名(敬称略)
4. 欠席委員 : 岡部幸子
5. 市側出席者 : 高齢者支援課 斉藤幸一、古谷秀俊、山田冬射、鈴木琴音、有留慈瑛  
福祉総務課 金子和彦、狗飼匠、山田雄介、小俣大志  
(敬称略)
6. 医師会出席者 : 事務局 阿部斉人 (敬称略)
7. その他報告者 : 2024年度多職種連携研修部会長 岡根浩太郎 (敬称略)  
2025年度多職種連携研修部会長 中澤幹夫 (敬称略)
8. 傍聴者 : 55端末
9. 記録 : 町田市介護人材開発センター 石原正義、奥山孝、宮本千恵

《資料》

- 資料1 2024年度 町田・安心して暮らせるまちづくりプロジェクト(通称:町プロ)  
活動報告
- 資料2 2024年度医療と介護の連携支援センター実績報告
- 資料3 第24回多職種連携研修会(専門職向け)の開催結果について
- 資料4 町田・安心して暮らせるまちづくりプロジェクト実施方針(2025~2027年度)
- 資料4別紙1 町田・安心して暮らせるまちづくりプロジェクトの取り組み(~2024年度)
- 資料4別紙2 町田・安心して暮らせるまちづくりプロジェクト(2025~2027年度)工程表
- 資料5-1 地域ケア推進会議の実施状況について
- 資料5-1-1 地域ケア推進会議報告書(堺第2)
- 資料5-1-2 地域ケア推進会議報告書(堺第2)
- 資料5-1-3 地域ケア推進会議報告書(忠生圏域)
- 資料5-2 地域ケア推進会議報告書(医療と介護の連携支援センター)
- 資料6 アドバンス・ケア・プランニング普及啓発部会における検討状況  
について
- 資料7 個別避難計画の作成についてご協力をお願い
- 資料8 2025年度多職種連携研修会のテーマについて

《開会》

1 開会挨拶

【川村会長】 いつも仕事のあと、お集まりいただき、ありがとうございます。今日も議題が盛りだくさんの  
で、速やかにしっかり協議してほしい。季節も夏に向かって、だんだん暑くなってきて熱中症に注意す  
るよう喚起されているので皆さんも気を付けてほしい。今日もよろしくお願いいたします。

委員挨拶

## 2 報告事項

### (1) 2024年度 町田・安心して暮らせるまちづくりプロジェクトの活動報告について

【高齢者支援課・鈴木氏】 鈴木氏より資料1に沿って説明。

### (2) 2024年度 医療と介護の連携支援センター実績報告について

【佐川委員】 佐川委員より資料2に沿って説明。

資料14ページ、スライド10について、令和6年度は地域推進ケア推進会議を4回実施し、多くの皆様にご参加いただき、また三師会の先生方にも基調講演等のご協力を賜り、ありがとうございました。皆様のご支援とご尽力により、充実した会議を実施することができた。会議では必要な医療機関にたどり着くことが困難な原因として地域にかかりつけ医を持っていないことがあげられた。また、有事にのみ受診する、医療機関を受診していないなどのさまざまな理由で地域にかかりつけ医がいないことで本人にとって必要なときに適切な医療や介護サービスを利用できないことを把握した。地域住民や専門職に対してかかりつけ医の重要性を普及啓発することが重要であり、こちらの課題に対しては現在、町プロの多職種連携研修部会で提案をさせていただき、検討中である。

【井上委員】 資料11ページ、スライド3の相談者の所属機関属性について、医療機関の相談が増えているそうだが、お恥ずかしい話、薬局が医療と介護の連携支援センターをあまり活用してないのではという話もある。薬局からの相談は増えているか。

【佐川委員】 薬剤師会からの問い合わせは今のところ確認できていない。増えているのは医療機関、それも総合病院でソーシャルワーカーがいる病院からの相談が増えている。

【井上委員】 こちらからも周知していきたい。

【松岡委員】 資料13ページ、スライド8の介護サービスの調整・利用についての相談事例にあげられている「認知症のある方のショートステイを探している。(居宅)」だが、この認知症の疾患別、種類というのはどのタイプの認知症のことだったのか。

【佐川委員】 相談のあった認知症の方は行動障害が激しく出現されている方で一般のショートステイでは断られる方だった。一般のショートステイでは難しかった。

### (3) 第24回多職種連携研修会(専門職向け)の開催結果について

【研修部会・岡根部会長】 岡根部会長より資料3に沿って説明。

アンケートの回答件数が少なかったのは、今回運営側のフォームのミスがあり、回答いただけなかった参加者もいた。大変申し訳なく思っている。各団体からのご出席をいただき感謝している。

【佐藤委員】 資料22ページ、スライド13で「自分の専門職が持つ強みが役立つか」の回答で「どちらともいえない」の回答が14%であるが、わかれば職種を教えてください。

【研修部会・岡根部会長】 7名が回答しており、1名が歯科医師会、栄養士会が2名、リハビリテーション連絡会が1名、通所事業所連絡会が2名、高齢者支援センター連絡会が1名という割合である。

【佐藤委員】 私もこの研修に参加して、職種によって距離感が違う、かかわるタイミングが違うというような話をグループでした記憶がある。今後、ACP 普及啓発部会を通していろいろな職種の方がそれぞれのタイミングでかかわることが大事だと皆さんと話をしていたところなので、非常に勉強になった。

【長谷川委員】 今後の方向性について、研修部会でACPを取り扱って2年間やっていただいて、今後は、今回の研修のアンケート結果をもとにACP 普及啓発部会で進めていく形となる。このあと、ACP 普及啓発部会での検討状況の報告があるが、町プロとしてはACP 普及啓発についての研修の取り組みはひと段落となる。普及啓発部会としては専門職団体が研修や勉強会をされていくときにACPを取り扱うときは声をかけてほしいと思っている。そのなかで専門職の方がどのようなことを考えて、どのような学びを得られているのか知っていきたいと思っている。

【藤原委員】 興味がある事業所があると思うので、各連絡会で主催する研修や勉強会の際に連絡会をまたいで、ぜひ、声をかけていただきたい。

【齋藤議長】 連絡会と協議会の開催のタイミングもあると思うが、この協議会でも共有していただきたい。

- 【永見委員】 参加者アンケートでリハビリテーション連絡会の人が強みがわからないと答えていたとのこと、各連絡会で何かをやっていくときに、研修会での羽成先生の講演映像をお貸しいただければ、研修に出てなかった人も導入しやすいと思うので検討いただきたい。
- 【高齢者支援課・斉藤係長】 第24回多職種連携研修会で実践的な ACP の研修を開催するにあたっては、第21回の羽成先生の映像を見てからお越しく下さいということで、先生に許可もいただいて活用させていただいたので、ACP 部会でも前向きに検討していきたい。
- 【罇委員】 去年、小規模多機能連絡会とグループホーム連絡会で合同で研修を行った。今回も11月頃に小規模多機能連絡会とグループホーム連絡会合同で ACP の勉強会を企画しようと思っている。グループホーム連絡会のなかでも今回研修に参加した人は少なかったもので、まだまだ ACP に関してグループホーム連絡会での理解度はかなり低いと思う。ぜひ長谷川委員と一緒に研修をしていただきたいと思うので、後日研修の日程調整をよろしくお願ひいたします。
- 【研修部会・岡根部会長】 ここ数年部会長をやらせていただくなかで一つ積み上げができたかと思う。スライド20のまとめ、分析と研修の成果について、事前事後の実態をしっかりと確認しておくことと効果測定がしやすいと思う。研修がよかったかよくなかったかという話ではなく、自分たちの実態がどう変わったのかということ、その変容をしっかりと測る。日々事業のなかでは皆さんそれぞれが、そういった目線でお客様や患者様とかかわっていると思うが、自分たちのことになるとなかなか質の向上は青天井で、どこまでいったらいいのかが見定められないことがあると思う。例えば、周知目標値を設定し、参加者の人数を積算し、この人数まで知らせることができたので一つの目標は達成されたとする、こうしたことの積み重ねが重要ではないかと思っている。今後、各団体での実施の際には事前事後の実態の確認をしていただくといいのではないかと思う。

#### (4) 町田・安心して暮らせるまちづくりプロジェクト実施方針(2025~2027年度)について

- 【高齢者支援課・鈴木氏】 鈴木氏より資料4に沿って説明。  
資料27ページ3の(1)①「救急医療情報キットの活用」をご覧ください。昨年度の実実施方針では見直しを行うとなっていた部分について、昨年10月から運用を開始したため、配布用及び自作用救急医療情報キットの普及啓発を行うという文言に変更している。続いて、28ページの(2)①「ACP(アドバイス・ケア・プランニング)の推進」の項目をご覧ください。昨年度は医療と介護の関係者が連携して ACP に対する市民の理解を深めるという文言だったが、ACP 普及啓発部会で検討を進めているなかで、市民の理解を深めることに加え、活用されるための取組も推進していくという方向性になったので、文言を変更した。
- 【柴委員】 Dr.Link の活用とあるが Dr.Link のことがよくわからない。今データ連携システムなどの情報ツールが多すぎてよくわからない。何をえばだれとつながるのか、一つにまとめてもらえると一番楽だが、そうしたことができるのかどうかをお聞きしたい。
- 【高齢者支援課・斉藤係長】 Dr.Link については資料の8ページをご覧ください。医師がケアマネジャーからの連絡や相談をスムーズに受けることができるように、あらかじめ医師の方が対応可能な曜日、時間帯、相談方法などをリスト化してケアマネジャーが医師と連絡や相談がしやすい環境をつくるケアマネタイムの町田市版ということで運用をしている。コロナを機に先生方が忙しくなった時期などもあり、運用を止めていたが、ぜひ運用を再開したいとの声があり、再開に向けて動き出している。一方で、ケアマネジャーだけが使うツールではなく、多職種が皆さんで連絡を取れるようなツールの検討をという声もいただいているので、まずはこの Dr.Link を再開して、その後の課題や多職種の方の意見も聞きながら多職種が活用できるツールについても皆様と検討を進めていきたいと思っている。
- 【井上委員】 お薬手帳を活用した連携の仕組みの構築ということで、プロジェクトオリジナルのお薬手帳カバーの配布を前からやっていると思うが、薬剤師会の方に在庫がない。今後、新たにカバーを作ることはあるのか。
- 【高齢者支援課・斉藤係長】 お薬手帳カバーは最初にかかなり多く作って、配布も進んできて、市の方でも在庫が少なくなっている。堺第2高齢者支援センターではこのお薬手帳カバーに入るサイズの ACP チェックシートを作り、お薬手帳カバーも含めた活用を新たに始めている。町プロもこういったところをヒ

ントに今後は、お薬手帳カバーだけを作って配るのではなく、このお薬手帳カバーを生かしたアイデアや施策を考えて普及していけたらと思っている。そうしたヒントを生かしながら検討を進めたい。在庫について、連絡会の所有状況は把握していないが市の方に若干数在庫がある。ご希望があれば多い数ではないが数十単位くらいであれば配布できるので、声をかけてほしい。後ほど、ACP 普及啓発部会の部会長から報告があると思うが、部会でもお薬手帳カバーサイズの啓発ツールを考えている。検討状況を鑑みながら皆様に報告していきたいと思う。

【長谷川委員】 資料27ページの3(1)「在宅医療の充実」で在宅医療の患者数は、2020年度2,476人、2025年度は推計値になっていると思うが、5年ごとに推計値を出していくのかどうか教えてほしい。

【高齢者支援課・斉藤係長】 こちらは以前、令和3年度の死亡小票調査で出した数字である。患者数や死亡小票に基づくデータは国でオープンデータになっているので、そちらも含めて確認したい。

【長谷川委員】 推計値が実績値にどれだけ近づいているのかわかってくれば、方向性としてもやはり在宅の利用者や患者が増えていくということで私たちも今後どうやって対応していくかを考えていくことになると思うので調べていただきたい。

#### (5) 地域ケア推進会議の実施状況について

【佐川委員】 佐川委員より資料5に沿って説明。

【岡本委員】 資料41ページの参加者内訳の町内会自治会15人の年齢層はどうか。

【佐川委員】 年齢層のデータは取っていないのでお答えできない状況である。

【柴委員】 資料39ページで身寄りのない方が救急搬送されたということだが、後見人がつけられなかった。また、あわせて聞きたいのだが、訪問介護の障がい利用者がゴールデンウィークに救急搬送され、行先はわかったが、ケアマネジャーは利用者が搬送された先やどうやって運ばれたかなどをどうやって知るのか知りたい。病院に連絡しても担当がいなくて情報を教えられない、と言われて何の情報ももらえない。どうやったら情報を聞けるのか教えてほしい。ヘルパーが行かなくてはいけないうちにいつ帰ってくるかわからない、といったケースがあり急に調整が発生することがある。

【長谷川委員】 身寄りのない方に関しては、何かあったときにお知らせくださいということで、ケアマネジャーの名刺や保険証をお薬手帳カバーに入れておくのがスタンダードだと思うが、身寄りのない方が救急で運ばれた際は、それを発見して連絡してもらうくらいしか手段がない。ヘルパーが家に行って利用者がおらず、近所の人から救急車で搬送されたようですと聞く場合があるので、そういうときに病院のソーシャルワーカーから連絡をいただくということがケアマネジャーとしては多いと思う。

【佐藤委員】 こうしたケースの場合、病院のソーシャルワーカーは住所をもとに所管の高齢者支援センターに問合せをするケースが多い。そこでケアマネジャーの情報をいただくことが一般的ではないかと思う。病院の方でも入退院支援加算であるとか、入院時連携加算だとか、初動のところでケアマネジャーとつながるといって報酬が設定されているので、その辺はソーシャルワーカーの皆さんが積極的に活用されているかと思う。

【柴委員】 ゴールデンウィークの真ただ中で担当がいなくてゴールデンウィーク明けまで待つてほしいと言われた。お休みなのはわかるが、お休み中は退院しないとかいう確約はあるのか。ヘルパーなので行かなきゃいけないというのがある。

【佐藤委員】 本人が帰るといった場合は帰ると思う。状況によるかと思うが対応できる範囲で、看護師や直接先生が対応する場合があるが、全くないとは言えない。

【五十子委員】 病院が言えないのはドクターが言えないのだと思う。個人情報ではなく刑法で医師には守秘義務があり、守秘義務違反になるので言えない。

【長谷川委員】 資料41ページの忠生圏域の地域ケア推進会議の「課題に対する対応策」にリーフレットに関して今後町プロで提案していくとあるが、今後提案されればここでの協議になると思う。できているリーフレットがあれば、どんなものなのか情報提供いただければと思う。

【佐川委員】 今日サンプルを配るつもりだったが忘れてしまった。町プロポータルサイトの地域ケア会議の報告に掲載される予定なので、ぜひ検索してご覧いただきたい。希望の方がいればお帰りの際に私に声をかけていただければ手元に届くように配慮させていただく。

(6) アドバンス・ケア・プランニング普及啓発部会(以下、ACP 部会)における検討状況について

【ACP 部会・長谷川部会長】 長谷川部会長より資料6に沿って説明。

【岡本委員】 私もこの部会に参加しているが専門職の ACP の認知が低いと思っている。連絡会などで聞いても ACP という言葉を知らないとか認知が低い。皆で部会をまたいで研修や勉強会をやるのは良い案だと思った。福祉用具事業所連絡会も参加させていただきたいと思う。今後、こうした研修は生きてくると思う。

(7) 個別避難計画の作成について

【地域福祉部福祉総務課・金子次長】 金子次長より資料7に沿って説明。

昨年度、鶴川をモデル地区として作成した個別避難計画について、今年度から市内全域を対象に作成を行う。約800名の方に6月中旬以降にご案内を送付する予定である。もし利用者から個別避難計画はどういうものなのか、作成にあたり不明点がある等の問い合わせがあった場合は、福祉総務課に連絡をしてもらうようにお伝えいただきたい。

【齋藤議長】 作成対象者に様式を送付するとなっているが、在宅人工呼吸器を使用している方は保健所で作成されている方もいると思うがその場合はどうするのか。

【地域福祉部福祉総務課・金子次長】 在宅人工呼吸器の方は保健所の方で個別支援計画を前から取り組んでいるので、その方はそちらのほうを使っていただく。

【松岡委員】 昨年、うちの事業所もケアマネジャーが1名の避難計画を作った。計画を作るのは分かったが、実際に災害が起こったあとのフォローアップはどういうことをしたらいいのかまでこの計画に落とし込まれているものなのか。

【地域福祉部福祉総務課・金子次長】 この計画は個別避難計画ということで、まずは命を守っていただく、避難先までのことを事前に決めておくというものである。ケアマネジャーからも様々な意見をいただいたり、障がい当事者や親御さんからもただ避難すればいいというのではなく、避難先での支援や配慮みたいなことまで考えないといけないとの意見をいただいた。そちらについては、今回の計画では避難の際に配慮が必要なことをかけるようにしていたが、その他の部分についても書けるようにということで、避難先で避難者名簿に名前を書いて配慮事項を伝えるように活用していただいてもいいと考えているが、もう少し工夫や避難先での配慮事項は防災安全部と一緒に考えていかなければならないと思っている。

【齋藤副会長】 前回、鶴川地区で実際に避難してみたら金井中学校の段差がきつくて誰もつれていけないというような状況や大蔵小学校では水害では使えないなど、いろいろな課題があった。そのなかでどうやってケアマネジャーが計画を作るのかと思う。自分は真光寺なので真光寺中学校までどうやって連れていくか、何も言えないことが多々あって、そういうのは依頼を受けても書けない。そういう場合はどうすればいいのか、市に相談してくださいと言っていいのか。

【地域福祉部福祉総務課・金子次長】 実際に対象者がどこに避難したらいいかということで坂があるとか階段があるとかということで、事前に確認していただいて、ご自宅から避難所まで、指定避難所がどこなのか、どうやって、どの道なら安全に行けるのか一緒に考えていただけるようなことを想定しているが、実際はそうはいかないこともあると思う。ケアマネジャー連絡会でうちちょっと話をしながら決めていきたいと思っている。避難所がどこか、風水害の場合はどこが避難所として指定されているのか、実際に作ってみての課題はまた話をさせてほしい。ケアマネジャー連絡会には説明に行かせていただきたいと思う。

### 3 協議事項

(1) 2025年度多職種連携研修会のテーマについて

【研修部会・岡根部会長】 岡根部会長より資料8に沿って説明された。

資料52ページ、スライド6の講義「かかりつけ医機能報告制度」について、講師候補者の都合が合わず現在白紙の状態である。2番のグループワークのワールドカフェ方式とは、かかりつけ医の医師、歯科医師の皆さんにはより多くの参加を期待しているが、当日急遽出られないケースも考えられる。参加

を予定していた要の方々が出られないことが当日わかり研修計画がうまくいかないということがあってはいけないと考え、要の職種の出席者が少ない場合を想定したうえでの対策である。具体的には出席した医師、歯科医師、薬剤師の人数に合わせて当日調整が可能な仕組みで、医師等一人を一つの国と見立てて、専門職チームがその国を渡ってグループワークをしていくような流れ、国をまたぎながら、それぞれの医師、歯科医師、薬剤師の皆さんとしっかり意見を交換できる仕組みです。確定情報ではなく部会で検討中のものである。市民向けについてもかかりつけ医を持ってもらうために理解を深めていただくことを考えている。選挙などもあり日程をまだ定めることができない。

【長谷川委員】私も研修部会に参加している。前回の協議会でもかかりつけ医の必要性を正しく知ることとお話をいただいたので、今回の研修会においては主治医とかかりつけ医の違いを理解していない、ケアマネジャーのなかでも必ずしも意見が一致しているわけではないので、こういう形で内容をしっかり把握して皆が同じ目線になるというのは有意義な機会と思う。

【永見委員】内容は非常にすばらしいし興味深いと思っているが、研修時間の設定について、特に市民の方に3時間という設定が長くないかと思った。

【研修部会・岡根部会長】ご指摘の通りだと思うので、実施の時間についても部会で引き続き検討していきたい。

【高齢者支援課・斉藤係長】資料には、前回の市民向け研修の時間を参考に目安で入れている。前回は講話とフレイルチェックを行ったので時間が長くなった。次回は内容を踏まえながら適切な時間についても検討していく。

【齋藤副会長】10月4日の研修会について、定員は80名の設定にしているが、参加する専門職の割合は検討しているのか。

【研修部会・岡根部会長】今の段階で各団体に何名ずつという設定はない。当初かかりつけ医というテーマで意見をいただいて医師会からのご出席を想定して考えてきたなかで、80名を単純に10名だと8グループ、8名だと10グループになるので10名前後のグループに一人ずつ医師が参加してくれば活発になるのではないかとあがっていた。ただ、予定していた方が出られなくなる可能性があるもので、先ほどの改変する形式も検討している。

【土屋委員】この専門職の研修会が土曜日の2時から5時で歯科医院は診療している方が多い。できれば早めに計画を知らせてほしい。

【研修部会・岡根部会長】できれば一番早い段階でというお話だと思うが、3か月前4か月前でも間に合うものか。

【土屋委員】できれば3か月以上前をお願いしたい。

【研修部会・岡根部会長】皆様に助けられて今日までやってこられた。感謝申し上げます。委員の皆様、研修に参加してくださった方、サポートに来てくださった方、研修部会の皆さんと研修部会を支えてくださった市役所の担当職員の皆様の支えがあってなんとかなってきた。ありがとうございます。

【研修部会・次期部会長・中澤氏】今年度より研修部会の部会長を岡根氏から引き継いだ町田市リハビリテーション連絡会の中澤です。よろしく願いいたします。町プロの中でも研修部会は重要なものだと思っているので、引き受けたからには頑張っていきたいと思っている。皆さんのご協力がないと研修が成り立たないので、皆さんのご協力をよろしく願いいたします。

協議事項1は、全会一致で承認された。

#### 4 その他

##### (1) 各協議会委員の報告・意見交換など

###### ① Dr. Link の更新活用について

【佐川委員】Dr. Link の更新をすることを前回の協議会で報告させていただいた。今回は、現在の進捗状況を報告する。Dr. Link は現在、2019年度で更新が止まっている状況である。この2019年度のデータにある項目について、介護人材開発センターと医師会のご協力をいただいて確認の作業を行っている。6月中を目途に更新をしていく予定である。よろしく願いいたします。

【川村会長】先ほどの研修の件だが、すごくいいことでぜひやっていただきたいが、医師会、歯科医師会が協力しないといけないので、早めに内容をしっかり決めてほしい。町プロの協議会として医師会長と歯科医師会長に依頼を出して、何人出してくださいとやらないといけないと思う。内容について五十子先生、土屋先生とよく詰めてやっていただけたらと思う。

(2) 次回の協議会の開催日程

2025年10月16日(木)または23日(木) 19:00～20:30

5 閉会挨拶

【齋藤副会長】お疲れ様です。活発なご意見をありがとうございます。私も昨年 ACP の研修に出て、今、現場で訪問して ACP について話しやすくなった。それはなぜかという医師会と町田市が協力して皆さんが自分らしく生きることを真剣に考えているからと伝えている。市民もどうい生活方をしたらいいか考えてくださっている。特に要支援の人が真剣に考えてくれている。先ほどのいろいろなアイデアが活かされてくると思う。これからの市民のために有意義なこの会を作って広めていきたいと思うので、今年度もよろしくお願ひします。

以上の議案審議、協議を行い、2025年度第1回の協議会を閉会した。

以 上